

お知らせします みんなねっとの活動

■がんばるデイ2018中央企画への連帯!

2018年12月7日新宿駅西口で、きょうされん主催の街頭署名活動が行われました。その一環で、**みんなねつと岡田久実子副理事長**が連帯の街頭演説を次の趣旨で行いました。

『**こころの病気**で病院に通院や入院をしている人たちは、国内で323万人にのぼります（平成20年）**日本人のおよそ40人に1人の割合**です。生涯を通じて**5人に1人がこころの病気にかかるともいわれています**。こころの病気は特別な人がかかるものではなく、誰でもかかる可能性のある病気です。すべての国民の課題だという認識の中で、五大疾患にも認定されました。少しずつですが、国の方針も改定されて、隔離政策を改め、入院から地域へということで、福祉の対象としての精神障害者が位置づけられてきました。が、まだまだ精神障害を持ちながら生きていくことは、なかなか困難を伴います。

今年4月から、ようやく**精神障害者の雇用が義務化されましたが**、その同じ「障害者雇用促進」の旗を掲げた人たちが、自ら率先して障害者雇用のための環境作り』に取り組み、その手本を示すことが本来の姿の筈でした。「私たちの仕事は国や地域を守る高騰な仕事だから、障害者には無理」というおごりが

あるのでは? とさえ感じます。今こそ真剣に「[国や地域を守る高騰な仕事を、どのように環境を整えたら障害を持つ人たちにも力を発揮できるのか](#)」を、当事者の方々の声に耳を傾けて、本気で考えていただきたいと思います。

雇用問題は、生活を支える重要な問題です。それと並んで、努力をしても就労につながらない障害を持つ状況の方にとっては、障害年金も生活に直結する重要な問題です。[精神障害を持ちながら前向きに生きていくために、障害年金が底支えとなる](#)、という役割があるのですが、現実には短時間でも就労が継続できるようになると症状が回復したと判断され、年金がストップされ、ステップアップしようとしていた梯子を外されてしまう・・・ということが起きています。精神障害の場合には、そのことが病状の悪化に直結することさえあるのです。所得補償としての障害年金の役割を認識し、必要な人にはきちんと支給されるものであって欲しいと思います。

最後になりますが、精神障害に限らず、あらゆる障害はすべての国民の仮題です。生まれてから命を閉じるまで、[この社会の中で、まったく何の障害も体験せずに過ごせる人はいるでしょうか?](#) 障害者の問題をひとつとして片付けることなく、自分のことに引き寄せて、行動することが、一人ひとりの未来、日本の未来を明るくしていくと思います。』

引用元：みんなねっと 2019 2月号(全文引用)

※「みんなねっと」は仙台みどり会の属する全国組織です。旧「全家連」です。